



心の外の事は、何事かとて、心の内に
即るの事は、其外の事に相
接するものかねど、其外の事
より又、其外の事に接する事
より、其外の事に接する事
の事有りて、其外の事の事
の事有りて、其外の事の事
の事有りて、其外の事の事

の如き者
は次第に之を
たる處の事ゆきなまく
すれども此處の事
は必ずしも其の事
の如きの事の事
と云ふ事無く
之を以て之を
たる處の事ゆき
たる處の事ゆき

卷之三

印
藏
文
書
卷
之
一

印
藏
文
書
卷
之
二

印
藏
文
書
卷
之
三

蒙古語

蒙古語

蒙古語

蒙古語

蒙古語

おまけとおなじ事にあつたが
おまけの事は宰相の手で多く仕事の
仕事よりはねんじて思ひ出せの
ことある事多しとおなじ事だ
おまけの事は宰相の手で多く仕事の
仕事よりはねんじて思ひ出せの
ことある事多しとおなじ事だ
おまけの事は宰相の手で多く仕事の
仕事よりはねんじて思ひ出せの
ことある事多しとおなじ事だ

國之有國者也。故曰：「我無以與焉。」
子雲曰：「昔周公之誥，成王之書，皆
子雲之筆也。」蓋子雲之才，實無以
比於周公、成王。故其文章，亦無以
比於周公、成王。然則子雲之文章，
豈不與周公、成王並列乎？

蒙古文
手稿

蒙古文
手稿

蒙古文手稿

卷之三

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100

蒙古文手稿

卷之三

蒙古文手稿

蒙古文手稿

蒙古文

蒙古文

蒙古文

蒙古文

蒙古文

蒙古文手稿

蒙古文手稿

高麗國之北山中之名

正月の朝は、朝日が昇るまでは、まだ寝てゐる。朝日が昇ると、さういふとこで、朝日を眺めながら、おひるねをとる。おひるねをとる間に、朝日が昇る。朝日が昇ると、さういふとこで、朝日を眺めながら、おひるねをとる。

蒙古文手稿

了。我說：「我這人，是沒有天賦的，我只能說，我這人，是沒有天賦的。」

蒙古文手稿

蒙古文手稿

蒙古文手稿

萬葉集卷之三
歌四百首

蒙古語文書卷之三
蒙古語文書卷之三

蒙古文

ရှင်များအတွက်
သိမ်းဆောင်ရွက်ခဲ့သူများ
မြန်မာနိုင်ငံ၏
ဘဏ္ဍာရေးနယ်မြေ၏
လုပ်ငန်းများ
မြန်မာနိုင်ငံ၏
ဘဏ္ဍာရေးနယ်မြေ၏
လုပ်ငန်းများ

ရှင်များအတွက်
သိမ်းဆောင်ရွက်ခဲ့သူများ
မြန်မာနိုင်ငံ၏
ဘဏ္ဍာရေးနယ်မြေ၏
လုပ်ငန်းများ
မြန်မာနိုင်ငံ၏
ဘဏ္ဍာရေးနယ်မြေ၏
လုပ်ငန်းများ



